

シクリスムエコーNo.113 2004年11月号

JAPAN CUP 2004.....	2	第8回全日本実業団クリテリウム in いわき.....	12
ナショナルチーム・強化指定選手の再編成.....	6	第5回チャレンジ・ザ・オリンピック.....	13
UCIトラック・ワールドカップ第1戦モスクワ派遣選手団.....	6	大会スケジュール未掲載分.....	13
ツール・ド・チャイナ 2004 派遣選手団.....	6	UCI サイクルサッカー・ワールドカップ 大阪大会.....	14
ツール・ド・チャイナ 2004.....	7	2004年世界室内自転車競技選手権派遣選手団.....	14
彩の国まごころ国体 第59回国民体育大会自転車競技.....	8	2005年シクロクロス世界選手権代表候補推薦基準.....	15
アジア MTB 選手権フィリピン大会.....	11	'04-'05シクロクロス・ワールドカップ派遣要項.....	15



Japan Cup 2004

13回目となる2004ジャパンカップに来日した6チーム30名の選手の中で最も注目を集めたのは、疑うことなく世界ランキング1位のダミアノ・クネゴ（サエコ）であろう。昨年のこのレース

スタートサインをするクネゴ



でも6位に入賞しているクネゴ人気も手伝ってか、ジャパンカップの舞台となる宇都宮森林公園周回コースには、主催者発表で50,000人という例年以上の大観衆が集まった。

今期引退の今西



スタート前にこのレースを持って引退するシマノレーシングの今西尚志の引退セレモニーが行なわれ、また前日夕刻に発生した新潟県中越地震の犠牲者に黙祷が捧げられた後、定刻10:00に国内勢43名を加えた73名の選手がスタートした。

1周目の古賀志林道の上りで、まず飛び出したのが橋川健（キナンCCD）、'88チャレンジサイクルロードレースにおいて当時高校生ながらA2クラスを制した橋川も、このレースでは最年長の部類に入るベテランだ。その橋川を追いかけて集団からも数名の選手が飛び出し、下りで国内選手による5名の集団が形成された。その5秒後をやはり国内選手3名の選手が追い、さらに集団から海外選手3名を含む4名が飛び出す。この12名が9km地点の萩のポイントまでに

先頭集団を形成し、この時点でメイン集団に44秒の差をつける。先頭集団のメンバーは橋川の他に、ケビン・フルスマン（クイックステップ）、シルベスタ・シュミット（サエコ）、アンヘル・ゴメス（サウニエルデュバル）、岡崎和也、広瀬敏（以上NIPPO）、福島康司（ブリヂストン）、新保光起（愛三工業）、三船雅彦、中川康二郎、石田哲也（以上ミヤタ）、鈴木太地（ユーキャン）という顔ぶれ。序盤に国内選手による先頭集団が形成されるのはこのレースでは珍しいことではないが、今年は海外有力チームのアシスト3名が加わっている。しかも例年ならば序盤の逃げ集団に対してメイン集団は比較的静観の構えを取るのだが、今年はその様子が見られない。実際に先頭集団が1周目を22分21秒というハイペースで周回するも、その時点でメ



イン集団との差はわずか51秒で、メイン集団も23分台半ばのペースで先頭集団を追っている。

先頭集団は2周目の13km地点、池のポイントでメイン集団に2分30秒の差を付けるが、これがこのレースで記録された最大の差となる。メイン集団は3周目の8km地点、中坪のポイントまでに先頭集団との差を1分45秒まで詰めると、以降はその差が1分40秒前後で推移しレースが進んでいく。例年



ベルタニヨツリ(5位)

シンケビッツ(1位)

クネゴ(2位)

シュミット(4位)

あと1週の鐘を聞く先頭集団

ならば先頭集団とメイン集団との差が4分以上開くことも珍しくないが、今年はメイン集団の前方に海外勢が位置して先頭集団を完全に射程距離に捉えており、実に見ごたえのある序盤戦となった。このレースでクネゴに少しでも多くのポイントを稼がせて、ランキング1位の座を守らせたいサエコ。昨年2位の雪辱を晴らしたいパトリック・シンケビッツを擁するクイックステップ。チームとして5連覇のかかるランプレ。それぞれのチームの思惑が重なってこのような緊張感あふれる展開と

なっているのであろう。山岳賞が懸かって先頭のペースが上がる3周目及び6周目の山頂のポイント(2km地点)ですら、先頭集団とメイン集団との差が縮まっている程だ。なお、3周目の山岳賞はゴメスが獲得し、6周目の山岳賞は激しい競り合いの末、シュミットが獲得した。

6周完了時で先頭集団(この時点で石田と鈴木が脱落し10名)とメイン集団との差はわずか46秒。7周目に広瀬と三船が脱落し8名となった先頭集団は、7周完了時には差を36秒まで縮められてしまう。そして8周目の古賀志林道の上りでサエコ勢らがペースを上げ、さらにブリヂストンの清水裕輔がエースの福島晋一を連れて一気に先頭集団を吸収した。林道の各所に構えたブリヂストン応援団の声援が響く。

これでブリヂストンの福島兄弟による逃げが決まれば更に観客のボルテージも上がっただろうが、ここまで先頭集団を守ったアシストのシュミットとゴメスがそれを許すはずもなく2人をマークし

て逃がさない。メイン集団も程無く追いついて、サエコ5名が前に出てサウニエルデュバル5名が続き、その後にメイン集団が位置する状態が少しの間続く。

8周完了のフィニッシュラインはサエコ4名を先頭にファビアン・イエーカー(サウニエルデュバル)、シンケビッツと続く。そして9周目の古賀志林道でクネゴ、レオナルド・ベルタニヨツリ、シュミットのサエコ勢3名がアタックし、集団のふるい落としを仕掛ける(山岳賞はシュミットが獲得)。これに反応できたのはやはり海外勢の有力選手で、7km地点の田野のポイントまでにマニュエル・クインツァート、マルコ・マルツァーノ(以上ランプレ)、シンケビッツ、ブラム・タンキンク(クイックステップ)、クネゴ、ベルタニヨツリ、シュミット、イエーカー、ファンホセ・コボアセボ(サウニエルデュバル)、狩野智也(シマノ)の、10名の先頭集団が形成された。先頭集団は9周完了時にはメイン集団に59秒の差を付ける。

10周目、第2の仕掛けどころとなる14km地点の鶴C.Cの上りで、サエコ勢3名が仕掛ける。これにクインツァートとシンケビッツが食らい付き、先頭集団が2つに割れた。メイン集団からは福島晋一が単独で飛び出す。10周完了時でその差は1分55秒と大きく離されている。最終周回、クネゴは古賀志林道で単独アタックし、その映像がホームストレートのマルチビジョンに映され



スタート直後より7周にわたり逃げ続けた岡崎(右)

ると、ホーム付近の観客から大歓声が上がった。シンケビッツがクネゴに続くが山頂でその差は8秒、その9秒後にベルタニヨリとクインツァート、更に13秒後にシュミットが山頂をクリアする。

シンケビッツは下りでクネゴに追い付き、ベルタニヨリ、クインツァート、シュミットの3名がセカンドグループを形成するが田野の地点で先頭との差が19秒と開き、これでクネゴとシンケビッツの一騎打ちとなった。ゴール前500mでシンケビッツが前へ出ると、そのままの順位でスプリントに入りシンケビッツがクネゴを押さえ、昨年2位の雪辱を果たす優勝を飾った。クネゴ

ゴール後サイン攻めにあうシンケビッツ



は無理をせず2位をキープしたようにも見たが、レース後のインタビューでシンケビッツが「クネゴに仕掛ける間を与えず、自ら自信のあるスプリントにいった」と語っていた通り、クネゴは2位で一杯だったのであろう。この2人は昔から何度も同じレースで戦っていたとのことなので、あの形になったらシンケビッツのものという意識もあったのかもしれない。3位にはクインツァート、4位には序盤の先頭集団にも加わっていたシュミットが入った。

優勝タイムの4時間01分30秒はレース距離151.3kmでの最速タイムであり、その通りここ数年では最も激しいレースであった。惜しくも2位に終わったが、クネゴを上位入賞させようとい

うサエコのプランはほぼ完璧にこなせており、アシストのシュミットは優勝したシンケビッツを除けば、このレースの最高殊勲選手といっても良い。表彰台上った3名の選手がそれぞれ各チームのエースナンバーを付けていたことから、自転車ロードレースがチーム競技であることを改めて認識させたレースであった。

なお、前日行なわれたオープンレース男子は、先頭集団による激しい競り合いの中、最終周回残り2km地点で脱け出した佐野淳哉（セレーノA&Tヤマダレーシング）が、ゴールスプリントでもそのまま逃げ切って優勝した。佐野はこのレース初優勝。

オープンレース女子は2周目の古賀志林道でエスケープした沖美穂（ファームフリッツ）がそのまま逃げ切るかと思われたが、その周回の12km地点で真下正美（SY Nac）と萩原麻由子（伊勢崎女子高）が追い付いて3人の争いとなった。だが自力に勝る沖が最終周回の鶴C.Cの上りで2人を引き離して優勝、7連覇を飾った。このレースが終わった時点で来年の活動は一切白紙と言う沖であるが、まだまだ女子自転車競技界をリードする存在でいて欲しい。（村田隆宣）

[競技結果]

JAPAN CUP (151.3km)

- | | | | | |
|----|---------------|-----|-----|---------|
| 1 | パトリック・シンケビッツ | GER | QSD | 4:01:30 |
| 2 | ダミアノ・クネゴ | ITA | SAE | 4:01:31 |
| 3 | マニエル・クインツァート | ITA | LAM | 4:02:14 |
| 4 | シルヴェスター・シュミット | POL | SAE | 4:02:16 |
| 5 | レオナルド・ベルタニヨリ | ITA | SAE | 4:02:18 |
| 6 | ブルム・タキソ | NED | QSD | 4:03:29 |
| 7 | マルコ・マルツァーノ | ITA | LAM | 4:03:29 |
| 8 | フベ・アン・イェカー | SUI | SDV | 4:03:30 |
| 9 | ファン・ホセ・ゴボア | ESP | SDV | 4:03:40 |
| 10 | 狩野 智也 | JPN | SHI | 4:03:43 |

オープン男子 (80.8km)

- | | | | | |
|----|-------|-----|-------------|---------|
| 1 | 佐野 淳哉 | 埼玉 | セレーノA&Tヤマダ | 2:13:28 |
| 2 | 小畑 郁 | 東京 | なるしま | 2:13:28 |
| 3 | 田中 聡 | 埼玉 | BSIスポーツワールド | 2:13:29 |
| 4 | 能美 有志 | 千葉 | セレーノ | 2:13:29 |
| 5 | 綾部 勇成 | 神奈川 | ミヤカスバル | 2:13:33 |
| 6 | 小室 雅成 | 埼玉 | ミカドレーシング | 2:13:54 |
| 7 | 中野清太郎 | 東京 | オベストバリエール | 2:14:23 |
| 8 | 二戸 康寛 | 東京 | なるしま | 2:14:41 |
| 9 | 中村 文武 | 東京 | フィッツ | 2:14:43 |
| 10 | 畑中 勇介 | 東京 | BSIスポーツワールド | 2:14:48 |

オープン女子 (42.3km)

- | | | | | |
|----|-------|------|--------------|---------|
| 1 | 沖 美穂 | JPCA | FARM FRITES | 1:19:02 |
| 2 | 真下 正美 | 神奈川 | SY-Nak | 1:19:05 |
| 3 | 萩原麻由子 | 群馬 | 伊勢崎女子 | 1:19:07 |
| 4 | 西 加南子 | 千葉 | スズパル 和 | 1:20:59 |
| 5 | 村中恵美子 | 東京 | キヨミザリ | 1:21:07 |
| 6 | 山口 亮子 | 愛知 | 村ノCCD | 1:21:18 |
| 7 | 豊岡 英子 | 大阪 | bicinoko.com | 1:23:05 |
| 8 | 加藤 紀衣 | 大阪 | Testach-R. | 1:23:19 |
| 9 | 酒井 真清 | 大阪 | Testach-R. | 1:23:32 |
| 10 | 小山美貴子 | 埼玉 | ZELKOVA | 1:25:59 |



ゴール後のクネゴ(左・2位)とシュミット(4位)



オープン男子のゴールスプリントを征した佐野(中央)



オープン男子のスタート



オープン女子のゴール、沖



スタート前、オープン女子の沖

ナショナルチーム・強化指定選手の再編成

(平成16年10月28日現在)

本連盟は平成16年10月20日に平成16年度第5回選手強化本部会(本部長 岩橋昭一)を開催し、トラックナショナルチーム・強化指定選手の選手選考につき審議を致しました結果、下記の通り再編成を致しました。

ナショナルチーム

《トラック短距離》3名



伏見 俊昭 フシミ トシアキ
(JPCA福島)1976生



長塚 智広 ナガツカ トモヒロ
(JPCA茨城)1978生



井上 昌己 イノウエ マサキ
(JPCA長崎)1979生



内田 慶 ウチダ ケイ
(JPCA栃木)1981生

《トラック中距離》1名

強化指定選手

《トラック短距離》 16名

田中 弘章 (JPCA福岡)	榊枝 輝文 (JPCA福島)	及川 裕奨 (JPCA岩手)
成田 和也 (JPCA福島)	渡邊 一成 (JPCA福島)	川村 崇 (東京・早稲田大学)
北津留 翼 (福岡・日本競輪学校)	吉松 直人 (高知・日本競輪学校)	菅田 杏道 (宮城・仙台商業高校)
太刀川麻也 (茨城・スーパーアスリートラボ)	遠藤 友子 (大分・鹿屋体育大学)	篠崎 新紘 (千葉・明治大学)
石井 寛子 (千葉・明治大学)	新田 祐大 (福島・日本競輪学校)	早坂 秀悟 (宮城・日本競輪学校)
岡 希美 (群馬・前橋育英高校)		

《トラック中距離》 6名

飯島 誠 (JPCA・スプリングパルク)	朝倉 佳弘 (東京・日本競輪学校)	藤野 孝彦 (佐賀・日本競輪学校)
佐藤 佑一 (岩手・順天堂大学)	大塚 沙織 (大阪・キャットアイ)	石井 寛子 (千葉・明治大学)

2004年・2005年 UCIトラック・ワールドカップ 第1戦モスクワ派遣選手団

大会期間	2004年11月5日～7日
派遣期間	2004年11月2日～9日
開催場所	ロシア・モスクワ
選手団	
監督	班目 秀雄 (JCFヘッドコーチ)
コーチ	田仲 剛 (JPCAコーチ)
メカニック	森 昭雄 (JCF強化スタッフ)
選手	榊枝 輝文 (JPCA福島)
	及川 裕奨 (JPCA岩手)
	成田 和也 (JPCA福島)

ツール・ド・チャイナ2004派遣選手団

大会期間	2004年10月29日～31日
派遣期間	2004年10月27日～11月1日
開催場所	中華人民共和国・北京市周辺
選手団	
監督	福田 公生 (JCF強化コーチ)
メカニック	鬼原 積 (JCF強化スタッフ)
マッサージ	村川満紀子 (JCF強化スタッフ)
通訳	中島 麗羽 (JCF強化スタッフ)
選手	飯島 誠 (JPCA)・真鍋 和幸 (JPCA)
	福島 晋一 (JPCA)・福島 康司 (JPCA)
	柿沼 章 (栃木)

ツール・ド・チャイナ 2004



今回で13回目となるツール・ド・チャイナ(UCI2-5)が中国・北京市周辺で10月29日から31日まで行われ、6ヶ国12チーム69名が参加した。

10月29日 プロローグとなるタイムトライアルが9時にスタートした。日本チームは、福島康司(弟)が先陣を切ってスタート、2番目に柿沼が初のナショナルチームに入っのスタート、3番目にベテラン真鍋のスタート、4番目に福島晋一(兄)が力強くスタートした。最後に飯島がホワイトジャージ('04全日本TT覇者)でスタートした。交通規制が上手く出来ていない中で福島兄が2位に、福島弟も4位となった。

プロローグに続き、午後3時に第2ステージがスタートした。平坦なフラットなコースで、どこのチームも逃げが決まらず、集団のままゴール勝負となり、中国のWANGFEIが制した。

結果イエロージャージは中国のLUOJIANSHIが獲得、2位に福島兄が続き、福島弟が3位となった。またポイント賞でも福島兄が1位、西谷(愛三)が2位につけた。

10月30日 第3ステージは、12.7kmのコースを10周し300mの高さまで登るハードなコース200kmで行われた。日本チームがこのステージの主導権を握り、終始コントロールして福島兄弟のワンツーフイニッシュのパーフェクトなレース運びだった。

10月31日 第4ステージは6.4kmのコースを15周する96kmで行われた。天候は雨、寒いスタートとなった。ホットコーヒーをスタート前に飲ませて体温が下がらないようにした。優勝に向けて5人がひとつになって目標に向けて

スタートした。前半から別府ら7人のグループが逃げるも後半に集団に吸収され38人の集団ゴール勝負となり、ポーランドのLESNIAKがこの最終ステージを制した。また西谷が3位に入りポイントを上げるなど健闘した。この結果、福島弟が個人総合優勝、2位福島兄。団体総合優勝日本

チーム。ポイント総合1位福島兄、2位西谷、3位福島弟となった。

福島弟:チームメイトのアシストで勝利することが出来た。ツール・ド・チャイナは通過点、来年はヨーロッパで一花咲かせ兄にお返ししたい。監督スタッフ有難う。

福島兄:楽しくレースが出来たのはスタッフチームメイトのおかげ、今後もこのような遠征の機会をを与えてもらいたい。

飯島:積極的なレースで勝てて良かった。アジアのレースは攻める事が大事、再確認できた。チームメイト、スタッフに感謝。

真鍋:5人で一人少ないチームで優勝できた。ベストなチームだった。まだまだ走りたいと思う。感謝。

柿沼:日本人の個人3連覇はとても価値あること、連勝記録を伸ばし自分自身も磨き向上したい。チームメイト、スタッフに恵まれ好成绩が残せたとても嬉しい次も出場したい。

今回のスタッフ、メカ鬼原さん、マッサーの村川さん、通訳の中島さんの協力と愛情が影の力となり優勝につながったと思います。ありがとうございました。(監督 福田 公生)

[競技結果]

個人総合成績

1	福島 康司	JAPAN	9:19:08.07
2	福島 晋一	JAPAN	9:19:16.06
3	Tomasz KLOCZKO	DSL(POL)	9:23:31.55
4	西谷 泰治	AISAN	9:23:32.79
8	別府 匠	AISAN	9:25:48.98
10	真鍋 和幸	JAPAN	9:25:51.46
14	柿沼 章	JAPAN	9:29:25.60
17	飯島 誠	JAPAN	9:29:31.25
27	田中 光輝	AISAN	9:30:19.75
42	秋田 謙	AISAN	9:43:15.90

団体総合成績

1	JAPAN NATIONAL TEAM	28:04:35.38
---	---------------------	-------------

2	MARCO POLO CYCLING TEAM	28:18:36.20
3	AISAN RACING TEAM	28:19:52.52

ポイント賞

1	福島 晋一	JAPAN	51p
2	西谷 泰治	AISAN	49p
3	福島 康司	JAPAN	44p

プロローグ(6.3kmタイムトライアル)

1	LUO JIANSHI	PLA(CHN)	8:19.24
2	福島 晋一	JAPAN	8:25.06
3	SONG SHUHAI	GUA(CHN)	8:26.82
4	福島 康司	JAPAN	8:27.07
8	西谷 泰治	AISAN	8:31.79
10	飯島 誠	JAPAN	8:33.25
17	真鍋 和幸	JAPAN	8:41.46
18	別府 匠	AISAN	8:42.98
19	柿沼 章	JAPAN	8:43.60
31	田中 光輝	AISAN	8:59.75
42	坂口 博	AISAN	9:11.45
45	新保 光起	AISAN	9:13.54
49	秋田 謙	AISAN	9:20.90

第2ステージ(85km)

1	WANG FEI	LIA(CHN)	1:49:05
2	Tomasz LESNIAK	DSL(POL)	1:49:05
3	LIU YAN	GUA(CHN)	1:49:05
4	西谷 泰治	AISAN	1:49:05
7	飯島 誠	JAPAN	1:49:05
8	福島 晋一	JAPAN	1:49:05
35	田中 光輝	AISAN	1:49:05
39	真鍋 和幸	JAPAN	1:49:05
44	坂口 博	AISAN	1:49:05
46	秋田 謙	AISAN	1:49:05
47	柿沼 章	JAPAN	1:49:05
54	新保 光起	AISAN	1:49:05
55	別府 匠	AISAN	1:49:05
60	福島 康司	JAPAN	1:49:05

第3ステージ(200km)

1	福島 康司	JAPAN	5:06:33
2	福島 晋一	JAPAN	5:06:33
3	Tomasz KLOCZKO	DSL(POL)	5:10:41
5	西谷 泰治	AISAN	5:10:41
6	別府 匠	AISAN	5:12:43
10	真鍋 和幸	JAPAN	5:12:43
15	柿沼 章	JAPAN	5:15:45
30	田中 光輝	AISAN	5:16:31
31	飯島 誠	JAPAN	5:16:31
45	秋田 謙	AISAN	5:28:48
	新保 光起	AISAN	DNF
	坂口 博	AISAN	DNF

第4ステージ(96km)

1	Tomasz LESNIAK	DSL(POL)	2:15:22
2	LIU YAN	GUA(CHN)	2:15:22
3	西谷 泰治	AISAN	2:15:22
12	福島 晋一	JAPAN	2:15:22
14	福島 康司	JAPAN	2:15:22
28	別府 匠	AISAN	2:15:22
33	飯島 誠	JAPAN	2:15:22
36	真鍋 和幸	JAPAN	2:15:22
40	田中 光輝	AISAN	2:15:44
41	柿沼 章	JAPAN	2:15:52
42	秋田 謙	AISAN	2:16:02

彩の国まごころ国体 第59回国民体育大会自転車競技会

10月23日から28日、彩の国まごころ国体第59回国民体育大会が、埼玉県で開催された。

初日の23日は上尾駅前スタート・ゴールで11市町村を通過する山岳コースのロードレース、その後の5日間は大宮公園双輪場においてのトラックレースが行われた。



ロードレースのスタート

成年スプリント1位の寺田(下)と2位の柴崎



少年スプリント1位の高橋(下)と2位柴崎

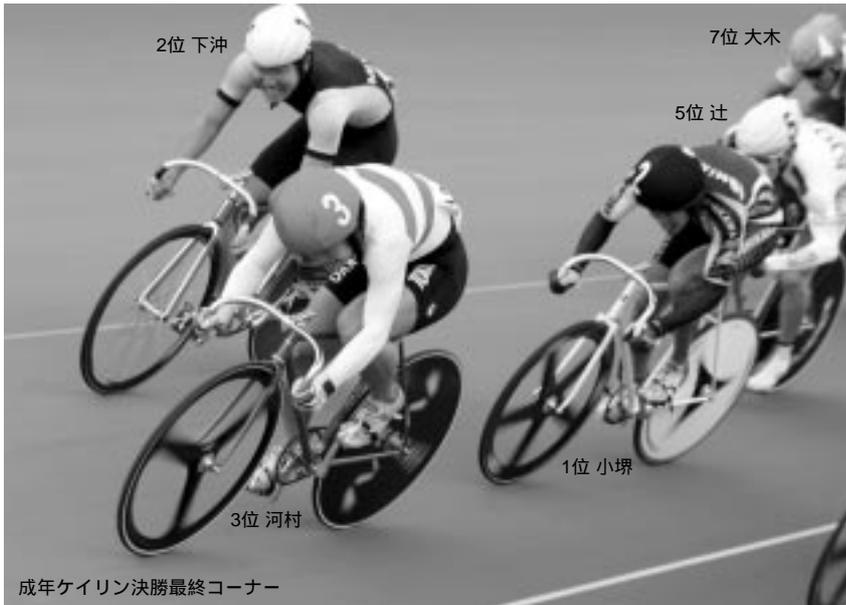


成年4km速度優勝の岡田



少年4km速度競走1位の白川(左)と2位の渡邊(中央)





成年ケイリン決勝最終コーナー



少年ポイントレース、先頭を引く1位の依田



少年エリミネーション、8番が優勝の稲吉

[競技結果]

成年個人ロードレース (157km)

1	宮澤 崇史	長野	4:13:52
2	土井 雪広	山形	4:13:52
3	井上 和郎	福井	4:13:52
4	西谷 雅史	東京	4:13:52
5	新城 幸也	沖縄	4:13:54
6	小笠原崇裕	長野	4:13:54
7	小笠原 豪	青森	4:17:00
8	広瀬 学	石川	4:17:08
9	辻 善光	京都	4:17:14
10	中本ゆうゆう	岩手	4:17:14

成年1kmタイムトライアル

1	在本 直樹	岡山	1:07.423
2	川村 崇	東京	1:08.838
3	伊藤 太一	山梨	1:08.908
4	矢野 昌彦	栃木	1:08.985
5	佐藤 幸治	秋田	1:09.080
6	篠原 忍	群馬	1:09.276

成年スプリント

1	寺田 信彦	大分
2	柴崎 俊光	三重
3	坂本 匡洋	大阪
4	河端 朋之	鳥取
5	前田 義和	鹿児島
6	園田 鉄兵	北海道

成年ケイリン

1	小堺 浩二	石川
2	下沖 功児	宮崎
3	河村 雅章	東京
4	仲村 天晴	秋田
5	辻 善光	京都
6	和田 圭	宮城

成年4km速度競走

1	岡田 将太	茨城	4:55.48
2	糸賀 賢司	福島	
3	山崎 晃	石川	
4	池浦 敏彦	新潟	
5	西村 行貴	熊本	
6	西山 知宏	福井	

成年ホィンロードレース (30km)

1	盛 一大	茨城	20p
2	武藤 大輔	高知	18p
3	三瀧 光誠	山形	18p
4	谷垣 雄基	京都	14p
5	石崎 和寿	宮城	12p
6	蛭名 洋平	青森	12p

成年4km団体追抜競走

1	岐阜	吉田・青木・平林・柴田	4:40.109
2	熊本	川崎・中村・西村・播正	4:40.450
3	福島	明珍多・小林・糸賀・明珍周	4:42.931
4	埼玉	緒方・菅原・高島・清水	4:46.187
5	秋田	守澤・佐藤・根本・仲村	4:43.438
6	京都	柏原・河原林・太田・谷垣	4:43.894

少年個人ロードレース (119km)

1	角 令央奈	兵庫	3:08:31
2	石井 陽	京都	3:08:35
3	柴田 一樹	神奈川	3:08:43
4	吉田 真人	奈良	3:09:25
5	湯浅 徹	千葉	3:09:28
6	漆澤 均	岩手	3:10:36
7	市山 研	神奈川	3:10:36
8	木村 力	青森	3:10:37

成年ポイント1位の盛(左)と2位の武藤



少年4km団体追抜優勝の岐阜



- 9 飯塚 航 群馬 3:10:37
- 10 小野寺政人 青森 3:10:41

少年1kmタイムトライアル

- 1 菅田 孝道 宮城 1:07.533
- 2 片折 亮太 埼玉 1:08.669
- 3 大西 祐 香川 1:08.894
- 4 我妻 敏 福島 1:09.730
- 5 櫻山 恭柄 福岡 1:10.307
- 6 本間 慎吾 新潟 1:10.337

少年スプリント

- 1 高橋 紀史 秋田
- 2 柴崎 淳 三重
- 3 岸澤 賢太 埼玉
- 4 原田 泰志 新潟
- 5 中園 朋亨 福岡
- 6 阿部 力也 宮城

少年4km速度競走

- 1 白川 巧 大分 4:58.32
- 2 渡邊 正光 福島
- 3 辻中国宏 京都
- 4 武田 和也 奈良
- 5 八尋 翔平 福岡
- 6 武田 行平 秋田

少年タイムトライアル

- 1 稲吉 悠大 福岡
- 2 加美山隆行 宮城
- 3 中山 哲之 香川
- 4 横田 啓之 群馬
- 5 望月 誉 沖縄
- 6 兼平 純 岩手

少年ホクトレース(24km)

- 1 依田 明久 岐阜 23p
- 2 漆澤 均 岩手 16p
- 3 房州 輝也 福島 14p
- 4 山本 貴洋 福井 13p
- 5 石井 陽 京都 13p
- 6 角 令央奈 兵庫 12p

少年4km団体追抜競走

- 1 岐阜 川西・依田・岸本・山田 4:40.722
- 2 奈良 奥田・和田・武田・吉田 4:41.702
- 3 福島 房州・我妻・中村・田崎 4:39.996
- 4 埼玉 片折・岸澤・神・土屋 4:43.202
- 5 福岡 稲吉・乙丸・八尋・櫻山 4:42.935
- 6 宮城 菅田・三浦・加美山・遠藤 4:43.775

総合成績

- 1 福島県 72p
- 2 岐阜県 66p
- 3 埼玉県 54p
- 4 京都府 51p
- 5 宮城県 47p
- 6 秋田県 44p



成年4km団体追抜優勝の岐阜

アジア MTB 選手権フィリピン大会



地球規模、競技スポーツ最大の祭典、アテネオリンピックも無事終了したが、MTB競技は、世界選手権フランス大会に続き、アジアMTB選手権フィリピン大会:10月7～10日(パラワン島プエルト・プリンセサ・シティー)で、今季シーズンの幕を閉じた。アジアチャンピオンをかけた、アジアMTB選手権は、コンチネンタルカップとして、UCIポイントも高い国際大会だ。MTBは自然をフィールドとするアナログ的な競技種目だけに、砂漠からヒマラヤ、熱帯雨林から、豪雪地帯までフィールドも広く、異なる宗教と民族、文化により、日本の常識など通用しないエキサイティングな大会となることが多い。

雨季終焉の時期ながら、スコールが来ればマッドの海と化し、晴天が続くと硬い路面となる熱帯林のコースだ

損、リアのみのスタートとなるが、2位を獲得する。男子は、今季絶好調の安達靖が金メダル、丸山弘起が銀メダルを獲得。XCは天候により路面が大きく変化する中、インスペクションのたびに、メカニックと打ち合わせ、手際よくタイヤ交換がなされていく。XC女子は、今季トップアスリートに開花した片山梨絵、登坂力抜群の高橋いづみがワンツーフィニッシュ。XCジュニア男子は、小野寺が、2位に5分以上の差をつけ金メダル。XC男子は、アジアの誰もが認めるトップアスリート、竹谷賢二、野口忍、山口孝徳がスタート。アジア3連覇を狙う、マッドキング、野口はスタートよりチャージを駆けるが、パンクのトラブルでリタイア。2位につけていた山口は、落車による負傷でファイナルラップにピッチが落ちる。野口リタ

が、考えていた以上に、テクニカルなコースだ。DH女子は、世界選手権で銀メダル獲得の末政実緒が、他を寄せ付けずアジアチャンピオンを獲得。鴨下美穂は、輸送での損傷でフロントブレーキが破

イアで、2位の竹谷は、食い下がるタイのマサエ選手を、2kmもの登坂路で小刻みにスピードの変化を付け、追撃の意識を断ち切った後、トップに躍り出る。「選手同士、間隔が開いても、トラブルがあっても、アジアチャンピオンは日本チームで連覇しなければならない!という共通認識がありました。」

これにより、日本チームは、全ての種目を完全制覇した。日本チームは、次なる最大の目標、北京に向けて進む。

(山本 康雄)

[競技結果]

DH ELITE-WOMEN (1.25km)

- | | | | |
|---|----------------|-----|---------|
| 1 | 末政 実緒 | JPN | 2:27.97 |
| 2 | 鴨下 美穂 | JPN | 2:45.04 |
| 3 | SUSEANTY, RISA | INA | 2:48.39 |

DH ELITE-MEN (1.25km)

- | | | | |
|---|--------------------|-----|---------|
| 1 | 安達 靖 | JPN | 2:09.00 |
| 2 | 丸山 弘起 | JPN | 2:12.77 |
| 3 | SUGIANTO, SETIAWAN | INA | 2:14.70 |

XC ELITE-WOMEN (27km)

- | | | | |
|---|----------------------------|-----|---------|
| 1 | 片山 梨絵 | JPN | 2:13:28 |
| 2 | 高橋いづみ | JPN | 2:19:51 |
| 3 | PORNBANCHOBOKUL, CHINDARAT | THA | 2:26:21 |

XC JUNIOR-BOYS (27km)

- | | | | |
|---|-------------------|-----|---------|
| 1 | 小野寺 健 | JPN | 1:45:53 |
| 2 | SURBAN, NINO | PHI | 1:50:51 |
| 3 | JALIP, STANLEY JR | MAS | 1:53:30 |

XC ELITE-MEN (32.4km)

- | | | | |
|---|-----------------|-----|---------|
| 1 | 竹谷 賢二 | JPN | 2:02:48 |
| 2 | 山口 孝徳 | JPN | 2:04:22 |
| 3 | MASAE, TAWTCHAL | THA | 2:05:27 |
| | 野口 忍 | JPN | DNF |



末永くお付き合いいただくために。



シマノ製品をご愛用いただきまして

ありがとうございます。

シマノではユーザーの皆様と、当社製品と

末永くお付き合いいただけるよう、

各種補修用パーツをご用意しております。

- 製品についている取扱説明書をご使用前に必ずお読みください。
- 機能保証のために分解できないパーツもあります。
- お近くの自転車店でご相談下さい。別途送料がかかる場合があります。
- 在庫状況により、品切れの場合もあります。予めご了承下さい。

SHIMANO

www.shimano.com

XBC001-A

第8回全日本実業団

クリテリウム

in いわき

(10/16-17 福島・いわき)



BR1決勝のスタート直後

[競技結果]

BR-1 (42.9 km)

- 1 狩野 智也 JPCA シルレーシング 1:04:36
- 2 広瀬 敏 JPCA Team Nippo 1:05:05
- 3 中川康二郎 JPCA ミヤタパル 1:05:05
- 4 土井 雪広 山形 シルレーシング 1:05:05
- 5 柿沼 章 栃木 絆CCD 1:05:09
- 6 今西 尚志 JPCA シルレーシング 1:05:57
- 7 三船 雅彦 JPCA ミヤタパル 1:05:57
- 8 大内 薫 JPCA シルレーシング 1:05:57
- 9 山本 雅道 JPCA シルレーシング 1:05:57
- 10 三浦 恭資 JPCA 絆CCD 1:05:57

BR-1団体成績

- 1 シルレーシング 狩野・今西・山本 16p
- 2 ミヤタパル 中川・三船・品川 23p
- 3 絆CCD 柿沼・三浦・橋川 26p

BR-2 (35.75 km)

- 1 小坂 正則 長野 スワローシング チーム 58:19
- 2 出井 光一 千葉 セレシング 58:23
- 3 秋元佑一朗 神奈川 レノ・ヤマダ 58:23
- 4 福田 透 滋賀 カガリAS 58:24
- 5 芥河 晋 神奈川 チームキップ 58:24
- 6 清水 誠悟 大阪 絆CCD 58:24
- 7 小林 撰 東京 学習院大学 58:24
- 8 長野宗一郎 岐阜 朝日大学 58:24
- 9 後藤 輝朗 千葉 日野自動車 58:24
- 10 大石 一夫 長野 あづみの 58:25

BR-2団体成績

- 1 カガリAS.キティザイン 福田・東島 23p
- 2 チームキップ 芥河・山添 30p
- 3 フェノリス 日隈・高橋 39p

BR-3 (35.75km)

- 1 木村 喜久 東京 ミタパル 和 1:00:18
- 2 伊藤 高明 大阪 Sakatani 1:00:18
- 3 菅 龍 東京 SEKIYA 1:00:18
- 4 小川 貴夫 東京 ミタパル 和 1:00:18
- 5 神永 三男 千葉 セレシング 1:00:18
- 6 橋 和寿 富山 チームマン 1:00:20
- 7 伊井 賢一 埼玉 ミカレシング 1:00:20
- 8 小坂 誠 千葉 FORZA 1:00:20
- 9 下村 英男 大阪 カガリAS 1:00:20
- 10 恵阿珠 朝 福島 PIAA-FUGAKU 1:00:20

BR1先頭集団を引く狩野



圧倒的な強さで勝利をものにした狩野





第5回チャレンジ・ザ・オリンピック



10月17日秋晴れの中、日本サイクリススポーツセンター250mトラックで開催されたチャレンジ・ザ・オリンピックに出場する選手たちは、朝早くから練習していた。

時折強風の吹く中、各種目が順次おこなわれたが、記録的には伸び悩んだ。

オリンピックが4年後ということもあり、参加者の欠場が目立った。

(鈴木 賢三)

参加者:男子57名、女子14名 計71名



3km1位の内田



[競技結果]

男子200mフライング タイムトライアル

1	神枝 輝文	10.769
2	渡邊 一成	10.862
3	田中 弘章	11.173
4	吉松 直人	11.200
5	川村 崇	11.219
6	小林 信晴	11.407

男子250mタイムトライアル

1	北津留 翼	18.533
2	田中 弘章	18.650
3	成田 和也	18.696
4	佐藤 正吾	18.776
5	高塩 譲次	18.839
6	渡辺 満	18.966

男子1kmタイムトライアル

1	及川 裕奨	1:07.038
2	成田 和也	1:07.425
3	田中 弘章	1:07.659
4	菅田 壱道	1:07.763
5	小泉 俊也	1:08.332
6	木本 賢二	1:08.356

男子3kmタイムトライアル

1	内田 慶	3:30.995
2	飯島 誠	3:44.171
3	朝倉 佳弘	3:46.217
4	藤野 孝彦	3:47.351
5	佐藤 祐一	3:48.296
6	川村 崇	3:53.036

女子200mフライング タイムトライアル

1	石井 寛子	12.733
2	遠藤 友子	12.807
3	篠崎 新純	12.913
4	太刀川麻也	12.940
5	岡 希美	12.963
6	佃 咲江	13.115

女子500mタイムトライアル

1	遠藤 友子	38.123
2	篠崎 新純	38.289
3	太刀川麻也	38.383
4	岡 希美	38.717
5	佃 咲江	39.630
6	石井 寛子	39.792

女子3kmタイムトライアル

1	大塚 沙織	4:18.832
2	石井 寛子	4:19.326
3	栗原 瞳	4:28.567
4	小淵 千恵	4:35.951
5	堀 友紀代	4:36.128



大会スケジュール未掲載分

大会名	期日	場所
第36回全日本室内自転車競技選手権大会	2004/12/11-12	東京・東京工業大学
第10回全日本シクロクロス選手権大会	2004/12/12	富山・砺波
ACCトラック・アジアカップ2004 第1ラウンド	2004/12/06-08	タイ・バンコク
ACCトラック・アジアカップ2004 最終ラウンド	2004/12/10-12	マレーシア・クアラルンプール
2004-2005 UCIトラックワールドカップ・クラシクス#2	2004/12/10-12	アメリカ・ロサンゼルス
2004-2005 UCIトラックワールドカップ・クラシクス#3	2005/01/07-09	イギリス・マンチェスター
2004-2005 UCIトラックワールドカップ・クラシクス#4	2005/02/18-20	オーストラリア・シドニー
2005年トラック世界選手権大会	2005/03/23-27	アメリカ・ロサンゼルス

UCI サイクルサッカー・ワールドカップ 大阪大会

10月9日、大阪府立体育会館。日本でサイクルサッカーの国際試合が開催されるのは、2001年の世界選手権（鹿児島県加世田市）、2002年のアジア大会（千葉県沼南町）に続いて3度目。ところで「世界選手権」と「ワールドカップ」は別物で、違いは国対抗かクラブ対抗かという点にある。

今回の大阪大会は、2005年に行われるワールドカップ本大会に向けた、予選大会の1つであり、アジア地区の代表を選出するためのもの。欧州からドイツとチェコのチームが参戦したが、アジア地区の代表選出とは異なり、欧州地区の彼らが本大会への出場権を得るのはポイント制。すなわちこの大阪大会は、彼らにとって「ポイント稼ぎ」の場になる。

出場チームはドイツ・チェコに加えて、マレーシアから1チーム、そして日本からは、合計7チームの参戦が認められた。アジア各国の不参加などの理由により、枠を広げられた形である。全10チームによる熱戦は、朝9時から夜7時まで続いた。全27試合。これほどの試合数が詰まっている大会は、日本ではそう多くない。非常に見応えのある大会だった。

サイクルサッカーを見たことがないという方々には、ぜひ競技会に足をお運び願いたい。12月には、今年度の集大成とも言うべき全日本選手権が東京で開催される。世界で活躍する選手達も、もちろん参戦する。ワールドカップにも負けない熱戦が、ここでも繰り広げられることは間違いない。今から楽しみな大会である。（阪本 博美）

[競技結果]

1 CK Svitava	CZE	Radim Hason	Pavel Losko
2 RV Ailingen	GER	Sven Braunger	Alesandro Federici
3 ケルム東京	JPN	都築 勝巳	松田 鋼
4 ビンズ大阪	JPN	宮本 武彦	木下 直也
5 CCKツディスかせだ	JPN	現王園仁志	手島 敏光
6 日通大阪	JPN	松本 恒治	山本 勝敏
7 チムジ東京	JPN	森 茂史	黒田 岳
8 ホルシムイヌ	JPN	蓑原 征也	前田 寛之
9 第一経済大学	JPN	大松 敏和	濱 秀明
10 Johore Bahru	MAL	Senin Zulkefi	Halim Samsinar Abd



ケルム対チェコ



ポスピシル対ドイツ



2004年世界室内自転車競技選手権日本代表選手団

大会期間	2004年11月19日～11月21日
派遣期間	2004年11月14日～11月24日
開催場所	ハンガリー・タタ
選手団	監督 青戸 公一 コーチ 池尻 宏之 メカニック 大松 敏和 トレーナー 濱 秀明
サイクルサッカー	都築 勝巳(東京)・松田 鋼(千葉) 蓑原 征也(奈良)・前田 寛之(大阪)
サイクルフィギュア	佐浦 裕行(東京)・芦田 史朗(千葉) 堀井 和美(滋賀)・小野寺千春(在独)

シクロクロス小委員会からのお知らせ

今年もシクロクロスのシーズンが始まりました。2005年シクロクロス世界選手権代表候補選手推薦基準及びUCIシクロクロスワールドカップ派遣についてお知らせします。

～ 2005年シクロクロス世界選手権代表候補選手推薦基準 ～

1. 対象大会

- 全日本選手権 富山・砺波 (2004.12.12)
 セレクションシリーズ 第1戦 長沼 (2004.10.17)
 第2戦 黒部 (2004.11.14)
 第3戦 富士見 (2004.11.21)
 第4戦 野洲川 (2004.11.28)

2. 対象カテゴリー

- エリート男子 (カテゴリー1)
 エスポワール(U23)(同上)
 エリート女子 (カテゴリーL2)

3. 競技規則

2004-2005 UCI 規則による (JCF ウェブサイト参照 <http://www.jcf.or.jp>)

4. ランキング

全日本選手権とセレクションシリーズ全4戦の1位から5位までに各規定のポイントを与え、その総合ポイントにより順位をつける。なお、同一ポイントの場合は別途定める方法で順位をつける。

5. 推薦基準

次の基準により JCF 強化委員会に推薦する。

- 1) 全日本選手権者2名 (エリート男女各1位)
- 2) 総合ポイント4名 (エリート男子1位、エスポワール1位、エリート女子1,2位)
- 3) UCI ランキング男子50位以内、女子20位以内の者
- 4) ジュニアは、シクロクロス小委員会の推薦者

～ 2004-2005 シーズン シクロクロス・ワールドカップ派遣要項 ～

1. 派遣目的 ・世界選手権へ繋がる大会として出場を考える。

2. 大会予定 及び UCI 公示の参加手続き期間

- (1) エリート男女の JCF への届け出の締め切り
- (2) JCF から UCI への参加申し込みの締め切り (締め切りは指示された日の正午である。)
- (3) スタートリスト公示の日
- (4) エリート男女において各国ベスト3を決めるための UCI ランキングが発表される日

開催日	開催地	開催国	(1)	(2)	(3)	(4)
10月10日	Wortegem-Petegem	ベルギー	9月24日	9月30日	10月1日	前年度末
10月28日	Tabor	チェコ	10月13日	10月18日	10月19日	10月11日
11月14日	Pijnacker	オランダ	10月29日	11月4日	11月5日	11月1日
11月27日	Koksijde	ベルギー	11月12日	11月17日	11月18日	11月1日
12月5日	Wetzikon	スイス	11月19日	11月25日	11月26日	11月15日
12月8日	Milan	イタリア	11月24日	11月29日	11月30日	11月15日
12月28日	Hofstade	ベルギー	12月10日	12月16日	12月17日	12月6日
1月2日	Aigle	スイス	12月10日	12月16日	12月17日	12月6日
1月16日	Nommay	フランス	12月20日	1月6日	1月7日	12月13日
1月23日	Hoogerheide	オランダ	1月7日	1月13日	1月14日	1月3日
2月13日	Lanarvilly	フランス	1月18日	2月3日	2月4日	1月24日

参加を希望する者は上記(1)の1週間前に小委員会へ所定の用紙にユニホーム、ホテル名などを記載して申し込むこととする。

3. 派遣規模 エリート男女 各1～3名、STAFF (期待数)1～3名 (日本人及び現地スタッフを採用)

4. 派遣条件

今シーズンはUCI規定で上記表の(4)時点での各国ランキング上位3名の選手からの申請を認めることが各国の連盟に要請されている。このことを踏まえ、1) UCI ランキング上位3名のうち参加を希望する者および2) JCFシクロクロス小委員会からJCF選手強化部に上申して認可された選手およびスタッフで構成する。国内上位3名とは昨シーズン終了時において

<男子> 辻浦圭一、小坂正則、三船雅彦 <女子> 真下正美、唐見実世子、高橋いづみ

JCFシクロクロス小委員会では上記選手の他、男女エリートUCIランク150位以内でUCI1以上の完走実績者の山本和弘、池本真也、小平幸永、南部博子、伊藤真里子、深井薫については参加の意があれば推薦する。また、今シーズンの地方の大会で秀でた成績を修めた者を追加し推薦する。なおUCIランキングに基づく選手の選出は今後変わりうるものである。

- 5. 経 費 ・旅費、滞在費用他基本的に自己負担とする。
・国際ライセンス取得費用は、国代表であり、世界選手権参加と同様にJCF負担とする。
・「旅費、賞金」の処理は、同行するSTAFFと選手により適正に処理する。
- 6. 派遣手続 ・遠征計画はJCFシクロクロス小委員会が策定する。
・エントリー手続きは、JCFシクロクロス小委員会を經由してJCFが行う。
- 7. そ の 他 ジャージ:今シーズンはナショナルチームジャージでなくとも選手の所属するクラブチームジャージでの参加が認められる。各自の着用するジャージをシクロクロス小委員会への申請時に写真を掲載して申し込む。

競技大会結果

大会名、チーム名等については略して記載

第6回アジア室内自転車競技選手権 (8/22マカ)

サイクルカッパ

- 1 大野 和俊・芦塚 正博 JPN
- 2 Ho Wing Tai / Lo Man Fai HKG
- 3 Zulkifli Senin / Shamsinar Abd Halim MAL

サイクルタイム男子シングル

- 1 Yu Sum Yee HKG 312.47
- 2 Wong Hang Cheong MAC 303.86
- 3 Yu Pok Man HKG 270.42
- 7 永井 隆 JPN 235.32

サイクルタイム女子シングル

- 1 Kuan Sok Mui MAC 278.07
- 2 Lou Weng Cheng MAC 245.63
- 3 宮崎 沙織 JPN 241.19

第40回西日本学生選手権新人戦 (9/19愛知・豊橋市営競輪場400m)

男子1kmタイムトライアル

- 1 後藤 彰仁 朝日大学 1:12.54

- 2 河合 彬 大阪経済大学 1:18.93
- 3 梅実 勇作 関西大学 1:19.53
- 4 大中臣冬樹 同志社大学 1:21.60
- 5 富永 浩平 京都大学 1:22.51
- 6 植村 俊基 同志社大学 1:22.64

男子スプリント

- 1 若槻 彰隆 朝日大学
- 2 川内 淳郎 龍谷大学
- 3 田中 茂 関西大学
- 4 南口 厚哲 同志社大学
- 5 坂本 拓也 朝日大学
- 6 稲生 貴久 名古屋産業大学

男子4km個人追抜競走

- 1 増田 智仁 朝日大学 5:06.33
- 2 吉岡 彰仁 龍谷大学 5:15.10
- 3 流田 裕士 北陸大学 5:21.14
- 4 岡崎 竜二 京都大学 5:26.56
- 5 田村 仁孝 京都大学 5:45.92
- 6 国田 雅徳 大阪経済大学 5:48.13

男子ケイリン

- 1 喜納 隆志 名桜大学
- 2 池本 揚亮 中京大学
- 3 益子 裕介 朝日大学
- 4 坂本 裕季 立命館大学
- 5 新垣 健 名桜大学

- 6 平田 尚 沖縄国際大学

男子ホクトレース(30km)

- 1 河原林 淳 立命館大学 29 p
- 2 長野宗一郎 朝日大学 24 p
- 3 牧田 洋和 朝日大学 23 p
- 4 山入端尚吾 名桜大学 18 p
- 5 長 義幸 同志社大学 17 p
- 6 辻 善光 立命館大学 14 p

女子500mタイムトライアル

- 1 入江 桃香 同志社大学 49.07
- 女子3km個人追抜競走
- 1 古澤 美歩 中京大学 4:58.16



競輪補助事業

事務局人事異動

平成16年9月30日付 帰任
業務部 競技課 課長
遠峯 武

平成16年11月1日付
選手強化部 部長
三浦 廣信(新) 林 富士夫(旧)

前号の「ツール・ド・北海道」記事p.7左側写真の説明に誤りがありました。
正しくは谷垣財務大臣です。お詫びして訂正いたします。

連盟の動き (10月中旬～11月上旬)

- 10月11日 オリンピックフェスティバル2004 於：東京・駒沢オリンピック総合運動場
- 12日 経済産業省車両課公益補助金要望ヒヤリング 於：東京・経済産業省車両課
- 16日 医科学部会 於：静岡・サイテル
- 18日 第5回選手強化委員会 於：静岡・サイテル
- 23日 日本自転車振興会公益補助金要望ヒヤリング 於：東京・日本自転車振興会
- 27日 トラック強化合宿 於：福島・泉崎村(～29日)
- ツール・ド・チャイナ日本代表選手団出発 於：中華人民共和国・北京(帰国 11/1日)
- 11月2日 UCIトラックワールドカップ第1戦日本代表選手団出発 於：ロシア・モスクワ(帰国 9日)
- 5日 日本体育協会公認自転車競技B級コーチ養成専門科目前期講習会 於：静岡・日本CSC他



シクリスムエコー No.113 2004年11月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩楯昭一

編集人/加藤 昭

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508

URL <http://www.jcf.or.jp/>

JCF協賛スポンサー



森永製菓株式会社健康事業部



株式会社サテライトジャパン

